

大正二年八月五日發行

婦人と子ども

第十三卷
第八號

フレイベル會

第十三卷第八號目次

幼稚園の問題に關して日田權一君に答ふ 棋山榮次

觸覺筋覺關節覺を其根柢とせる圖畫教授の實驗

的研究

望月くに

英文學にあらはれたる子供(八)

岡田みつ

手工應用玩具の造り方

藤五代策

第二十回京阪神聯合保育會提出遊戯歌曲

雜錄

附錄

美學講話(第七回)

菅原教造

本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前金郵稅共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七三六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄
谷八七八倉橋惣三宛

大正二年八月五日發行

編輯兼發行者 東京府豐多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八
倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地
フレイベル會

婦人と子ども

第十三卷 第八號

幼稚園の問題に關して日田權一君に答ふ

東京女子高等師範學校教授 槇 山 榮 次

先達フレール會の總會があつたとき余は同會の依頼に應じ幼稚園に關する平素の所感を述べたのであつた。其の演説の大意は會員某氏の筆記に依て本誌上に公表せられた。日田權一君は余の意見を委はしく閲讀せられて本誌第七號に極て鄭重なる而かも苦味を帯べる言辭を以て之に對する所感を述べられ且つそれに對する余の答辯を要求せられてをる。余は此頃職務上に變化を生じたため非常に多忙を極てをるから言辭を練つて丁寧なるお答をすることは出來ないけれども、折角の御要求でもあり且つ本誌上に公開せられて他の諸君に

も讀まるゝことであるから、余の所説を貫徹するに必要だけのことを辯解しようと思ふ。或は云ふ所粗雑であり無作法であつて禮を失ふことがあるかも知れないが、右に述べた次第であるから御當人の日田君に對しては勿論他の諸君に對しても言辭の末に介意せられざるやう豫め願つておく

一、幼稚園の振はざる主要の原因

幼稚園の振はざる主要の原因が何であるかと云ふことは君が余に問はんとする主要點でないことであるけれども、併し是は余の演説の要點とする所であり且つ君の云はれてをる所では余の旨

趣が十分徹つてをらないやうにも思はれるから、先方で御入用で無いからと云うて此問題を棄子にして置く譯には行かない。余は幼稚園の振はざる主要の原因を教育行政の局に當て居る人々が之を以て市町村の施設上必要缺くべからざるものと認めてをることの少いたためである、さうして其少いのは國家教育の施設として將た市町村の施設として幼稚園の必要なる所以が明かにせられてをらぬからであるとしたのである。幼稚園の振ふと云ふことはつまり幼稚園の多く設けられて之に入園する幼児も亦多いことであらう。さう成るには子供の親が其必要を認めて入園を希望する者の多く成ると云ふことも固より必要であらうが、教育當事者が幼稚園の必要を感じて鼓舞し獎勵し經營することが殊に必要であると思ふ。實業教育に熱心な人が文部大臣と成り縣知事と成り郡長と成り村長と成り其他施政に關與すべき有力者と成るときには自然に實業教育の振起することは争ふべからざ

る事實である。幼稚園は固より一個人の經營としても設け得るのであるが、施政の當事者又は之に關係ある人々をして十分に其必要を感じせしむるでなければ、少くとも我國の現状では之をして十分なる發達を爲さしむることが困難であると思ふ。當事者の幼稚園の施設に餘り熱心でないといふことには色々原因もあらうけれども余の見るところでは今日の幼稚園教育は小學校の教育のやうに國家の施設として又は町村の施設として當然爲さねばならぬものと認めらるべき性質を缺いてをるからであると思ふ。幼稚園と云ふものが本來斯様な性質を具ふべきものでなく、國民教育と云ふことには少しも接觸しないで宜いものならばそれきりのことであるが、自分は左様に考へて居らぬから此説を爲すのである。日田君は「假にお説の如く幼稚園は共同精神を涵養する所にして國民上必要缺くべからざる者であると積極的に其價值を鼓吹して見た所で之を聞いて幼稚園に押しかけて來る程進

んで居るのであらうか」と云はれてをるが余は共
同精神を涵養することの必要を説いて幼児を有つ
て居る親達に其子の入園を勸誘せよと主張した譯
では無い。又「幼稚園不振の理由はもつと根本的
に我國一般の社會生活上の状態が子供を幼稚園に
托せなければならぬ程必要に迫られて居ないでは
あるまいか云々」と述べてをらるゝけれども是は
托兒所即ち Kinderbewahranstalt と幼稚園とを混
じて考へて居らるゝではあるまいか。托兒所と幼
稚園とは互に相類してをるから時には纏めて幼稚
園と稱せらるゝこともあるが、其旨趣は頗異なつ
てをると思ふ。

二、幼稚園は上手にお守をするに

過ぎざる場所ではない

幼稚園教育をして國家が施設し將た自治團體が
施設すべき當然の仕事であるとする以上は之をし
て國民教育の一部分たらしむべき要素を具へしめ
なければならぬ。兒童現在の生活を完成せしむ

ると云ふ日田君の提案は自分にはちと臍に落ち兼
ねるのであるが、其生れ得たる天真爛漫の性質を
發展せしむることを以て直接目的とすべしと云ふの
であらうが。若し然りとせばエレン、ケーなどの主
張してをる自由教育説と其類を同じうするもので
或眞理を含んでをると同時に又或危険を伴ふもの
であると思ふ。併し是は君の間はるゝ點でないか
ら深入りすることを止めて、君の間はるゝ點に就
てのみ答へようと思ふ。余は幼稚園の教育を以て
上手にお守りをするればそれで宜いとするものでな
い。即ち幼兒の性情に應じて看護をしてをればそ
れで宜いとするものではない。幼稚園教育者の頭
腦には幼兒現在の生活に就てばかりでなく其將來
到達すべき生活の要點に就いても明確なる考へが
造られてをらねばならぬと信じてをる。現在の生
活に注意するのみならば氣のきいた子守をする
と大差ないことゝ成るのである。將來到達すべき生
活の要點と云へば申すまでもなく國民としての生

活である。其國民生活に對する基礎としては幼稚園などの幼兒には固よりさう六敷いことを教ふる譯には行かないから從來とても行はれてを一つて而かも其精神の十分に煥發せられざる共同作業或は共同活動を盛んにせよと主張するのである。日田君は「社交性を發達せしむるの目的は兒童の現在の要求を満足せしめんが爲にするのが主であつてお説の如く彼等が將來國民としての要求から來るのではない。それは自然の結果であると思ふ」と述べてをられるが、是は余と全く其見解を異にしてをる點である。愚見にては共同心を養ふことが國民教育上重要なことであるとすればそれは自然の結果であるなど、濟まして居ることではなからうと思ふ。斯様な考へを以て幼稚園教育をしてをらるゝから教育施政者が幼稚園に重きを置かないやうに成るではあるまいかと疑つた次第である。余が共同精神と云ふたのは日田君の耳には餘程六か敷響いたやうに思はれるが、つまる所一緒に事

を爲すの習慣を造ると云ふことで何もさう八釜敷云ひ立てる譯では無い。至つて簡單なことである。至つて簡單なことではあるが國民教育の上に大切であると云ふことはケルシエンスタイネルの書いた「國民教育の概念」作業學校の概念等を見れば痛快に論じてある。幼稚園こそ共同精神を煥發するに反て適してをると云うたに就て怪まれたのは無理からぬとであるが、一體學校の教授は個々別別の仕事を一定の規律の下に並行して爲さしむるものであるから一の仕事を共力して爲すと云ふことに成らない。一定の規律に服すると云ふことは固より共同精神を養ふ所以に成らないと云ふ譯では無い。併しながら共同精神を養ふ上に大切なる共同製作或は共同作業と云ふことは學校生活よりも自由の形式を採てをる幼稚園の生活が寧ろ適してをると云うたまでのことである。「自分の小學校や幼稚園に於ける事實を否定することが出來ない様に思ふ」と云ふ證明的の反駁であるけれども、

余は外形的に規律を整へられたのを以て共同心のよく養はれたものとはしない。小學校及び幼稚園の仕事の性質上より推定して斯くあるべき筈のものと云うたまでのことである。それであるから君

の管理してをらる、小學校や幼稚園の現在の事實がさうであるからと云うての余の論を打消す譯には行くまいと思ふ。(未了)

觸覺筋覺關節覺を其根底とせる圖畫

教授の實驗的研究

神戸幼稚園長 望 月 くに

序 言

幼稚園に於て視覺筋覺等の、發達を促進せしめんが爲めに園兒に隨意畫を畫かしむる事は、今日一般に行はるゝ保育上の一仕事なり。之れ教育者が園兒の表出本能を巧に利用する一例にして、此遊嬉的作業が幼兒心身の發達に好影響を與ふる事は吾人の想像以上なり。今後もこの教授は一層深く研究せられ一層有功に行はれざる可からず。

然るに斯界の現状を見れば此貴重なる教育手段が深き考慮と周到なる注意とに依らず、單に傳習的に使用せらるゝは甚だ惜むべき事なり。殊に此作業は主として眼と手の練習發達を目的とすれども現今の有様にては眼の練習は比較的系統的に行はれ居るも、手即ち筋覺竝に關節覺の練習は只自然に放任せらるゝのみにして、園兒の偶然的任意的練習に任せらるゝ事は少しく考慮を廻し自己の爲せることを觀察する時は直に氣付き得らるゝな

るべし。勿論圖畫を畫くに其畫くべき形態の視覺的心像が明白なることを第一の條件と爲すと雖も之れのみにして圖畫が立派に描出せられ得べきものにあらず。是と共に筋肉及び關節の微細にして從順なる調節を要するなり。手頭の筋及び關節が自己の思ふが如く動かざる時は描き出したる形體は決して調ひたるものにあらず。但し一定の修練を經たる畫家に於ては然らず。是等の人にありては明確なる視覺心像さへ出來得る時は手は之に從ふべく已に完成せられたるものなれば視覺心像を明確に作る事主要なる條件なりとす。然りと雖も幼兒に有りては未だ此點に達せざるを以て視覺心像を正確に作る眼の練習と共にこの心像を畫き出す手の能力を練習する事頗る重要なり。此等の事に付きては已に稍思慮ある教育者は自から悟らるるも如何にして其練習を充分ならしむるやの根本的智識に於て缺くる點多し是に於て多くは手の練習を言語又は視覺觀念を以て教へんと努力せり。

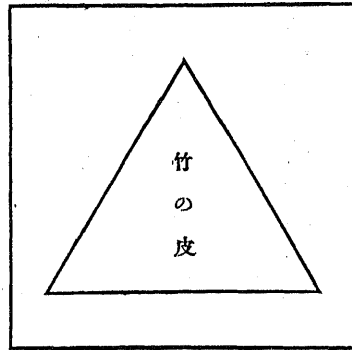
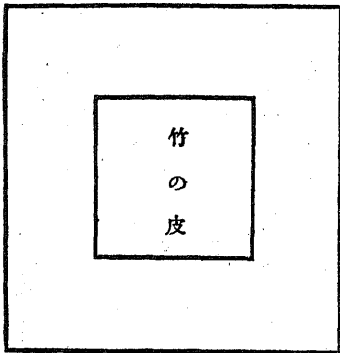
幼稚園又は小學校の圖畫習字の教授を見るに此等の事實至る所に發見せらる。即ち教師は熱心に黑板に向ひ結構筆法を説明し手先、腕、肘の心持を言語又は眼に訴へ之を理解せしめんとせり。是れ即ち今日の圖畫手工書方教授の一大誤謬なりとす。手先腕肘の運動の心持は實際に於て其心持を其器官によりて感知せしめざる限りは眞の理解にあらず。之を言語又は眼によりて傳習せしめんとすは所謂木によりて魚を求めんとするの類なり。今日圖畫の書方教育の効果比較的少なきは即ち之が爲なり。此方面に一大進歩を起し其効果を有効ならしむる爲には如何にか工夫して或る形體を畫く時の手の運動其者の心持を充分に會得せしめざるべからず。此點に就て圖畫及び書方教授に新らしき試みをなし驚くべき結果を上げたる保育界近時の一天才につきては、已に讀者の熟知せらるゝ所なり。余はモンテッソーリ女史の精神及び其考案を思ひ或日宅にて保姆佐藤滿壽子と共に同女史の

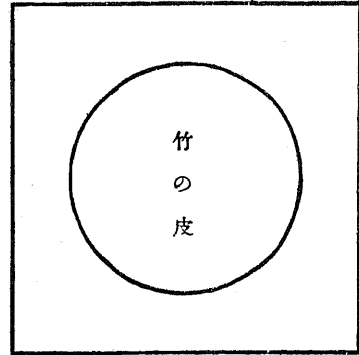
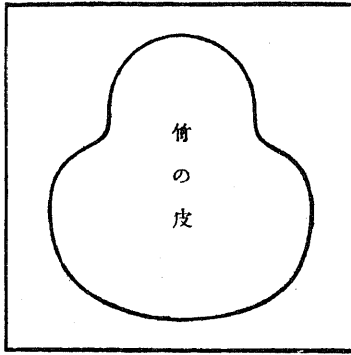
祖國に於けるが如く、我等も我國に適應する觸覺練習の方法はなきやと語り合ふうち、不圖傍に子供が愛養するカナリヤを風邪にかゝらせまじとて竹の皮をきり鳥籠を圍む居るを見て、此竹の皮こそはと思付き互に思ひくの形を切り、切りては貼り貼りては觸り子供も共に夕食さへも忘れはて種々研究の結果遂に簡易なる觸覺筋覺關節覺の練習具を工夫し我國に於て實驗的に實施せり。本報告は之れが成績の一般を記載したるものなり。

第一 實驗の方法

甲、練習用具

竹の皮を用ひて種々なる形態を作り是を表面滑かなる厚紙に貼付す。我國に於て實驗に使用せし形態は、正三角形、正方形、圓、達磨の四種を用ひたり、左に示す。(實物の二分の一大)





乙、實驗の方法

從來の方法と新案の方法との成績を比較せんがために次の三種の方法により畫を畫かしめたり。

(一)園兒の一組を保育室に容れ畫かしめんとする形體の名稱を云ひ直に鉛筆を以て畫洋紙に其名稱に應ずる圖畫を畫かしむ。例へば「三角を書いて下さい」「マルを書いて下さい」と云ひて直に畫かしめ其成績を集めて研究の資料となす。此の際畫く時間は各自の任意にせり。

(二)畫くべき形體の手本を示して是を畫洋紙に模寫せしむ。

(三)先に工夫したる練習用具を各園兒に與へ食指の先端を以て竹の皮にて造られたる形體の輪廓を閉眼又は開眼にて幾回も觸知せしめ(多くは拾數回)被驗者の心に該形體の視覺的筋覺的關節感覺的心像を作り、且つ其形體を畫くに必要なる筋肉運動の習慣を或程度まで成立せしめ然る後に紙面に該形體を畫かしむ。

第二 成績の整理

三角形の描寫成績より其成績を上中下の三組に分ち各組の代表的成績を示せば次表の如し。(すべて原畫の二分の一大)

右の三方法によりて得たる成績を比較するに、
(一)よりも(二)は其成績佳良にして(三)は更に
(二)に優る。余はこの成績良否の比較を數量的に
理解せんと欲し下の如き測定を爲せり。

本實驗の如き簡單なる形體の描寫にありては其
成績の良否は主として形體の正、不正に基く故に
この正、不正の度を測定して成績良否の標準とな
すことを得べし。かゝる見地の下に正三角形正
形にありては各邊の全長を圓にありては其直徑を
測定して平均の邊長又は直徑を求め之と各邊又は
各直徑の錯差を算出し是より平均錯差を計算し其
數値を以て該形體の不正確度を代表せしめたり。

以下其成績につき順次に記載すべし。

第三 結果

一、三角形の描寫につきて

成績上等ナル者

記憶基準平均錯差(〇、七五)
A 男 六 歳



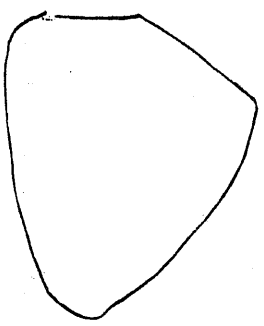
成績中等ナル者

記憶基準平均錯差(一、二九)
B 女 六 歳

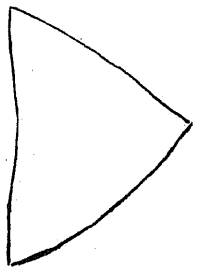


成績下等ナル者

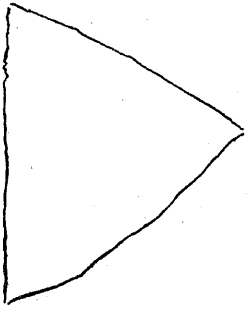
記憶基準平均錯差(一、八)
O 女 六 歳



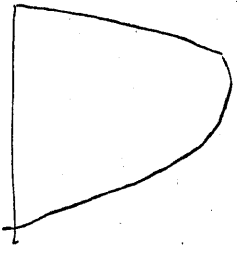
臨畫平均錯差(〇、四)
A 男 六 歳



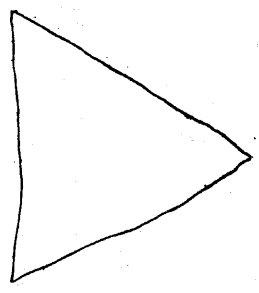
臨畫平均錯差(〇、三)
B 女 六 歳



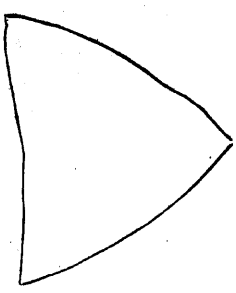
臨畫平均錯差(一、〇)
O 女 六 歳



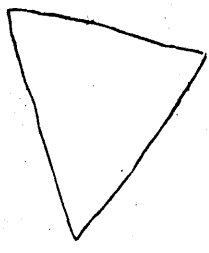
筋覺練習基準平均錯差(〇、二)
A 男 六 歳



筋覺練習基準平均錯差(〇、二)
B 女 六 歳



筋覺練習基準平均錯差(〇、二)
O 女 六 歳



以上の成績を見れば上中下等の如何に係らず
 (一)法による記憶畫は其成績不良にして形體の不正確度最も大に従つて平均錯差の數値甚だ大なり
 然るに(二)法による臨畫、(三)法による筋肉練習畫に至るに従ひ漸次其形體正確となり。平均錯差
 苦しく減少す。今十五人の平均より得たる平均錯
 差を示せば次の如し。

種類	實數	比
記憶畫	0.920	100.0
臨畫	0.533	57.4
筋覺練習畫	0.281	30.4

即ち記憶畫は平均錯差0.92なるに對し臨畫は0.533筋覺練習畫は0.281に減ず。更に記憶畫の不正確度を100を以て示せば臨畫は57.4に減じ約四割正確の度を増し、筋覺練習畫は約七割の正確度を増し、不正確度は約三割なり。

筋覺練習畫は臨畫に比し四割正確度を加へ且筆力強健となり線に力を加ふ。觸覺筋覺關節覺練習による圖畫成績の優良なる何人

も驚嘆せざる能はざる所なる可し。右は正三角形の描寫につきての研究の結果なるが、正方形、圓、達磨につきても同様の結果を得たり。参考の爲め左に其成績品のみを示さん。

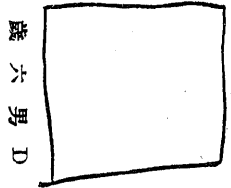
十六人の平均錯差を示せば次表の如し

項目	平均	標準差	標準誤差
成績上等ナル者	100.0	0.463	0.682
成績中等ナル者	74.1	0.332	0.178
成績下等ナル者	37.3		

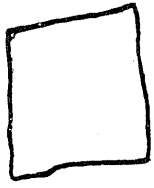
成績上等ナル者 成績中等ナル者 成績下等ナル者

記憶量平均錯差(〇、一八) 記憶量平均錯差(〇、三)

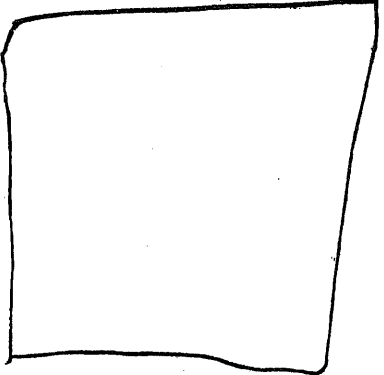
記憶量平均錯差(〇、五三)



歳 六 男 D



歳 六 女 E

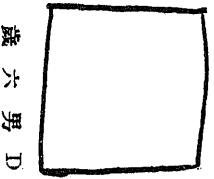


歳 六 女 F

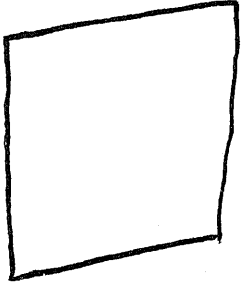
臨畫平均錯差(〇、三)

臨畫平均錯差(〇、二五)

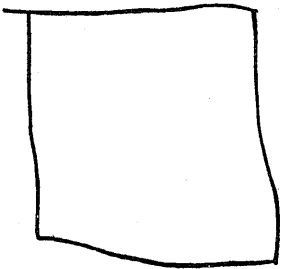
臨畫平均錯差(〇、三三)



歳 六 男 D

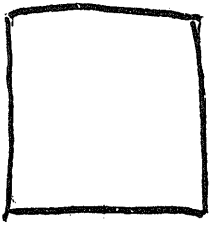


歳 六 女 E

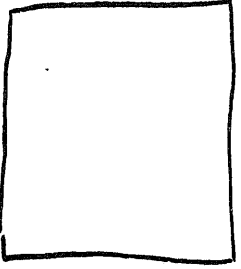


歳 六 女 F

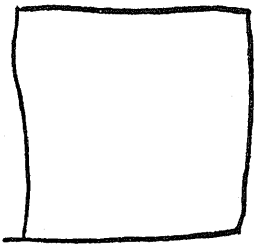
筋線練習量平均錯差(〇、一) 筋線練習量平均錯差(〇、二) 筋線練習量平均錯差(〇、三)



歳 六 男 D



歳 六 女 E

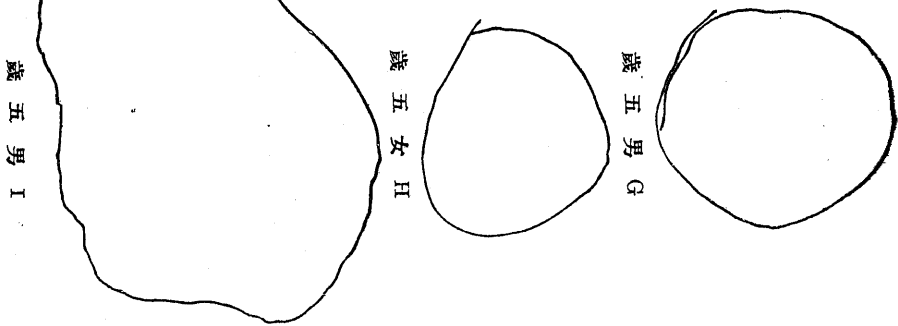


歳 六 女 F

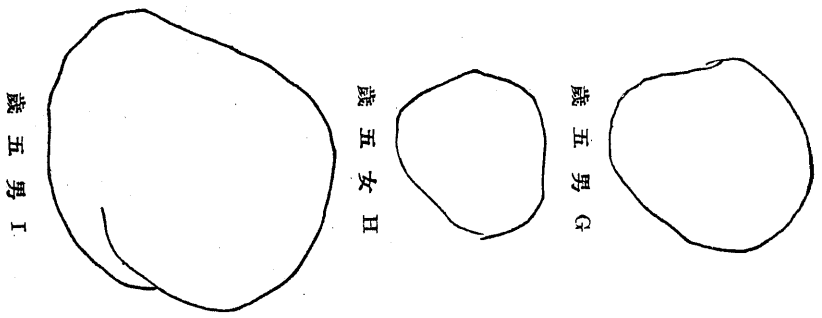
二十一人の平均錯差を示せば次表の如し

識	辨	辨	辨
識	辨	辨	辨
100.0	0.452	85.6	50.0
比	比	比	比

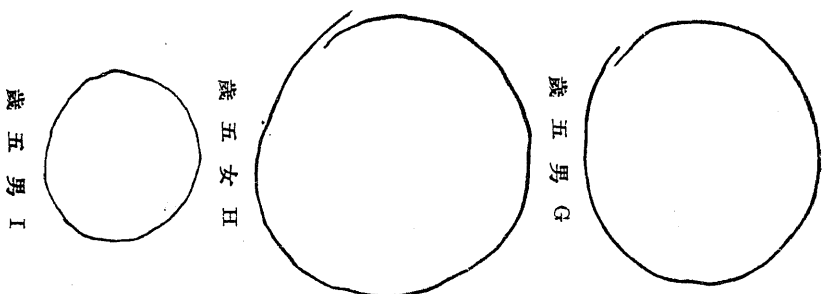
成績上等ナル者 成績中等ナル者 成績下等ナル者
 記憶平均錯差(〇.二) 記憶平均錯差(〇.二四) 記憶平均錯差(二.一一)



臨畫平均錯差(〇.三三) 臨畫平均錯差(〇.一七) 臨畫平均錯差(〇.四四)



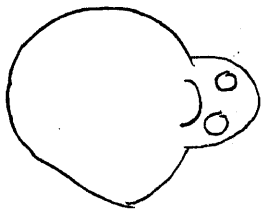
筋線練習畫平均錯差(〇.二二) 筋線練習畫平均錯差(〇.一) 筋線練習畫平均錯差(〇.二二)



達磨は以上正三角形圓形の描寫に於けるが如く其成績同様なるも錯差を算出すること甚だ困難なるを以て單に其成績を上中下の三種に分ら之を比較することせり即ち次表の如し

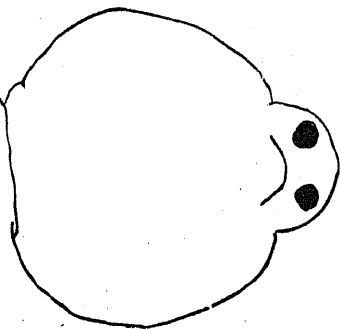
成績上等ナル者

記憶畫



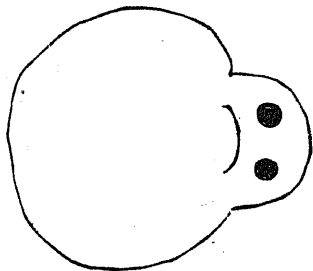
丁女七歲

臨畫



丁女七歲

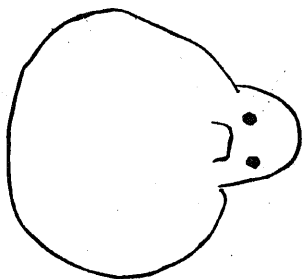
筋算練習畫



丁女七歲

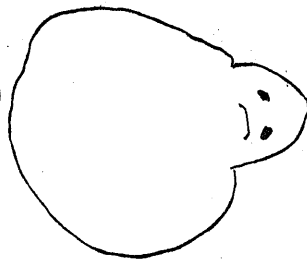
成績中等ナル者

記憶畫



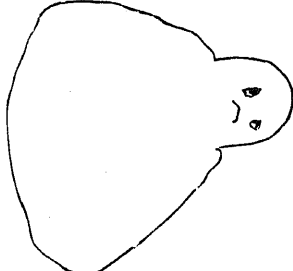
乙女六歲

臨畫



乙女六歲

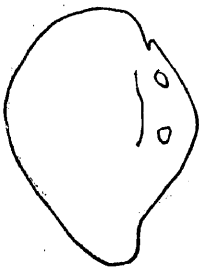
筋算練習畫



乙女六歲

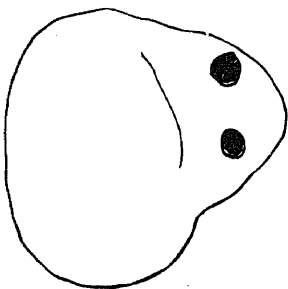
成績下等ナル者

記憶畫



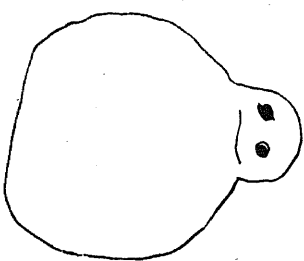
丁女七歲

臨畫



丁女七歲

筋算練習畫



丁女七歲

第四 概括

一、本實驗の結果の示す處によれば簡單なる形體を正確に畫かしむるには其準備として、筋覺の練習を爲すこと最も有効なり是れ形體の視覺的筋覺的關節覺的心像の成生せられ筋肉的運動の習慣形成せらるゝが爲なり。

二、形體の視覺的、筋覺的、關節覺的心像を正確に成生せしめんとするには幼兒の注意をこの感覺に集中せしめざる可からず、従つて今日一般に行はるゝ教育法の如く兒童の注意は主として外物若しくは視、聽の感覺にのみむけられ内感覺に注意を集中するの修練足らざる幼兒にこの法を課するも其効果割合に小なり。故に學級的に筋覺練習を行ふ時は其成績時として不良なることあり(茲に不良なりと云ふも臨畫、記憶畫に比すれば遙に優秀なり)之れ幼兒は形式的に筋覺練習をなすも其心は他の感覺に注がれ居るが

爲なり。故に若し成績不良の幼兒も一人づゝ一室に居らしめ四圍を靜かにして練習すれば全く別個人に思はるる如き好成绩を表はす。

夫故に筋覺練習にありては四圍を特に靜肅にし幼兒の心をして外物に奪はれしめず一心に筋肉關節の感覺に留意せしむること必要なり。

三、生來圖畫に堪能なるものは視覺によりて明確なる形體の心像生ずるが故に本法を用ふるも著しき差異を生せず。之れに反し生來圖畫に不能なるものは本法によりて甚大の効果を表はす。

四、幼稚園に於ける任意畫、臨畫の外に巧に此筋覺練習法を利用するときは圖畫に必要な線の描寫能力を養成することを得べし。

五、小學校、初年級の圖畫及び書方は此の方の輸入によりて教授上に一大革新を加ふるを得可し

英文學にあらはれたる子供(一)

東京女子高等師範學校教授 岡田 三 夫

『トム』と『マギー』(つぎ)

——厭な事だらけのマギーの一日——

其翌日は、朝から「マギー」には悪い日であつた。「ルーシー」と一所に居る嬉しさも、午後には「ブレット」伯父さんの家へ行つて、樂匣オルゴールを聞かせて貰ふ樂みも、朝の十一時頃に損はれて仕舞つた。

「セント、オツグ」町から來た理髮師が「マギー」の不揃ひの髪を手には「まあ之を御覽なさい。ツ、ツ、ツ」など 舌打をして、さんくに悪口を言ふのが「マギー」には世間一般の自分に對する悪評のやうに聞えるので、此の理髮師位畏ろしい人は他に無いやうな氣がして、此人の店のある通りへは、一生涯行かぬやうにしやうと思つた。「マギー」の家では、他處へ行くといふ事は、平常

も大變な事件なので、もう十二時頃から皆着物を着換へるのであつた。「マギー」が強張つた襟を厭がつて、顔を蹙めたり、肩を扭つたりするのを、母親が「御止しよ。そんな顔を御爲でない」と窘めてみると、「トム」の方は、他所行の衣服の衣袋へ、平常着の衣袋の中のを悉く移して（之れが「トム」には身支度をする時の一の樂みなので）仕舞つて、平然と落付いてゐた。而してその頬の紅くれなゐが、服の紺色に映えて、一段と汚まえて見えた。「ルーシー」は昨日同様瀟灑さつぱりとキチンとしてゐた。此子は、着物を汚す事がなく、窮屈に思ふ事も無いので、「マギー」が襟が氣に食はぬとて、身を跪

いたり、拗戻たりするのを、不思議さうに、氣の毒がつて眺めて居る。「マギー」は平常なら、疾にその襟を裂き取つてしまふのだが、斷髮一件で、口惜しい思ひをしたばかり故、唯焦燥たり、身を扭ぢたりして居た。

カルタで家を建てるのは、好い着物を着た子供に相當の遊戯だとして、御晝飯の時迄之で遊ぶ事となつた。「トム」は、立派な塔を建てるのだが、「マギー」のは如何しても、屋根を支へるやうにならない。一體「マギー」の爲る事は何でもさうなので、「トム」は、女の子は到底駄目なのだとして、まつてゐた。處が、「ルーシー」は案外巧みで、カルタを扱ふのも手柔かだし、その上「トム」に建て方を教へて呉れと頼んだりしたので、「トム」は頻りに「ルーシー」の手際を、自分のと合せ賞めるのであつた。「マギー」だとして、「ルーシー」のを賞めもしたろうし、自分の不細工を機嫌よく眺めもしたろうが生憎襟が強ばつて氣が苛々して居

る所へ、「トム」が「マギー」の家の仆れたのを、無遠慮に笑つて「馬鹿」だと言つたので、

「マ」笑はなくつたつて宜いワ。私馬鹿ぢやない！兄さんの知らない事を澤山知つて居る！」と息卷いた。

「ト」そうでせうよ、怒りッぽさん！御前見たやうな——そんな變な顔をした——怒りッぽい人ありはしない。ルーさんの方が餘程宜い。ルーさんが僕の妹なら可いに。」

「マ」まあ非道い。そんな事言ふのは悪い事だワ」と矢場に「マギー」が立ち上かつた拍子に、「トム」の塔は倒れて仕舞つた。「マギー」は實際倒す氣でも無かつたのだが、周圍の事情が如何にも「マギー」が爲たらしく見えるので、「トム」は顔の色を變へて、物も言はずにゐた。「マギー」を打ちもしたく思つたのだが、弱いものを打つのは卑怯なので、卑怯な事をせぬのが主義の「トム」は手も上げなかつた。

「マギー」は驚き恐れて佇立してゐると、「トム」は倒れた塔の中から、身を起して、眞青な顔をして歩き去つてしまふし、「ルーシー」は子猫が一寸舐めるのを止めだといふ風情が、黙つて其場の様を見てゐた。やつと「マギー」は「トム」の方へ歩を進めて、

「兄さん。倒すつもりではなかつたのよ。眞實に」
「其様氣ではなかつたの」と言つた。

「トム」は知らぬ顔して、衣袋から二つ三つ豌豆を取り出して、窓を目掛けて親指で弾き出した。初めは的もなく打つて居たのだが、終には、一疋の古青蠅が春の日に弱い身を曝して居るのを目掛けて打つた。

朝がかやうで駄目になつた上に、「トム」が何時までも澄して構ひ付けて呉れぬので、午後伯父さんの家へ行く途中も、「マギー」には、好い空氣も日光も一向身にならなかつた。「トム」は「ルーシー」を態々呼んで、出来かけの鳥の巢を見せてや

りながら、「マギー」には見よとも言はず、「ルーシー」と自分とのに柳の枝で鞭を作らへても、「マギー」には上げやうとも言はなかつた。「ルーシー」は「マギーさん、一つ欲しいでせう」と言つて見たが、「トム」は聞こえぬ振をして居た。

* * * * *

「ブレット」伯父さんの家へいつてからは、伯父さんは、子供達を見ると、直に自分が退屈忘れの材料にと、錠の下りる戸棚へ秘めて置いた甘い御菓子や、振舞ふと思ひ付いた。で、三人が御菓子を買つて、手に載せると、「ブレット」伯父さんは「今御盆と御皿を上げるから、それまで食べずに待つて御出で。ポロ／＼零れて困るから」と云つた。「ルーシー」は、綺麗な御菓子で食べるには惜しいと思つて居た所だから、穏順しく待つてゐた。「トム」は大人達が饒舌つてゐる暇に、二口に口の中へ押込んだ、モグ／＼噛んだ。「マギー」は相替らずで「ユリシイズ」と「ナウシカ」の額に

氣を取られて、其御菓子を落して御まけに足で踏み潰してしまつた。伯母さんが酷く焦燥するし、

「マギー」は申譯ない事を爲たと自分も思ふので今日は樂匣オルゴールを聞かせて貰へまいかと落膽してゐたが、聽て「ルーシー」が皆の御機嫌に協つてゐるから「ルーシー」から頼めば宜いと心付いた。で、「ルーシー」に小聲で囁くと、此子は、何時でも人のいふなりになるので、伯父さんの膝許へ行つて顔から首まで眞紅にして、頸飾りを扭りながら、「伯父さん」曲聞かせて頂戴な」といつた。伯父さんは、樂匣オルゴールを所望されると、中々オインソレと安請合をしないのが例で、「さうさね」と言つて、相當の間が經つてから、やつと承諾したやうな素振を見せるのであつた。

始まる迄が氣遣ひだつた故か、愈々面白い曲が始まつたら、「マギー」の喜びは非常で、心の重荷——「トム」が怒つてゐるといふ——も忘れて、身動きもせず手を拱いて聞きとれてゐた。そのやう

な風情を母親は見る度に、「マギー」は色黒でも時折は美しくも見えると慰めるのであつた。曲が濟むだ途端に、「マギー」は「トム」の許へ駈け寄つて首にしがみ付いて「兄さん面白い曲ね」と云つた。

此思ひ掛けもない「マギー」の親しげの素振り
は譯が解らぬので、トムは今更のやうに腹を立てたが、「トム」が強ち情なしの子だからといふ譯ではなく、丁度其時、手にカウスリップ酒の入つたコップを持つて居たのを、「マギー」が突き當つて半分ばかり溢させて仕舞つたからで、此場合「どうしたの、氣を御付けな！」と聲荒く言はないやうでは、「トム」も餘つ程な意久地なしになつて仕舞ふ譯だ。殊に、一同が「マギー」の舉動を不都合だと言つて、「トム」の立腹を尤と認める程だつたから。

母「マギーさん、何故靜としてゐないの」と母は息立つていふ。

伯「そんな御行儀の悪い子は、伯母さんの宅へ來て

はいけない」と「ブレット」伯母さんがいふ。
「どうも亂暴すぎるね。御前さんは。」と伯父さん
もいふ。可哀さうに「マギー」は面白さも何も心
から消え失せて、口惜しい悪いの念のみが蔓延つ
て來た。

子供達が室内に居る間は、不始末ばかり仕出來
しさうなので、母親は折を見計つて「歩いて來た
草臥も直つたらうから、庭へ出て御遊びでないか」と
と勧めると、「ブレット」伯母さんもそれが可らう
と云つたが「庭の敷石のの外へ踏み出さないやう
によ。其から禽が餌を食べる處が見たければ、馬
乗り臺の邊から、遠く離れて御覽よ」と言ひ添へ
た。いつぞや「トム」が、もし孔雀を嚇かしたら
羽の一本位抜ける事と思つて、追ひ掛けまはして
居る處を見付つて以來、禽の近くへ行く事を禁止
されるやうになつたのである。

* * * * *
大人同士は種々話し會つて、もう御茶の時刻だ

といつてゐると、戸が明いて女中が入つて來た。
茶道具を持つて入つて來た事と思つたのに、之れ
は又意外のものを連れ込んだので、「ブレット」伯
母さんも「マギー」の母親も一齊に「アッ」
「ブレット」伯父さんは思はず口に入つてゐた薬を呑
み込んでしまつた。意外のものといふのは、「ルー
シー」で、頭のそ先から足の先まで半身をそつくり
濡れそぼたれて、眞黒な泥塗れの手を差し伸べ
て、情無さうな顔をして居た。

事の起原へ溯ると、子供達三人戶外へ遊びに出
た時に、「マギー」の胸は又もや、むしやくしやし
て來て、朝の不愉快さを頻りに思ひ續けてゐる
のに、「トム」の方では、「マギー」が要もない事を
してコップを引くり返させたのが一層腹立たしく
「ルーさん、一所にいらつしやい」と誘つて、「マギ
ー」はてんで傍に居らぬ氣にして、庭の蛙の居る
方へ歩いて行くのであつた。それを「マギーは」
小さな鬼女といふ見得で送つてゐた。「ルーシ

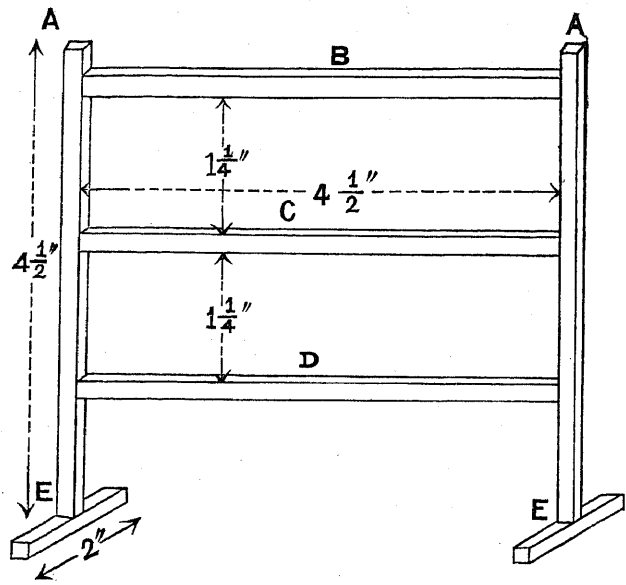
「ルーシー」は「トム」が優しくして呉れるのは固より嬉しく、肥つた蟾蜍を糸の先で櫛つて見せて呉れるのが可笑しくもあつたが、「マギー」が居たらこの墓に名を付けて、その身の上を話したりするだらうと思つて、「マギー」も来れば宜いと思つた。「ルーシー」は「マギー」が目に入る生物を種に、出放題の作り話をして、ヤレ挾蟲が今宅で洗濯をしてゐるのだとか、その子供が煮立つてゐる鍋の中へ落ちたので、急いで醫者を迎へに行く處だなど、云ふのを、半分眞實と聞くのであつた。「トム」はそのやうな妄語を蔑視つて、いきなり挾蟲を踏み潰して事實無根の證據を擧げて見せるけれども、それでも「ルーシー」は「マギー」の言ふ事が幾分道理に思へるし、御話としても面白い話だと思ふのであつた。それ故、今も、一つには肥つた墓の物語が聞きたく。又一つには、優しい氣質の子なので、「マギー」の居る處へ走せ戻つて「大きな可笑しな墓が居るの。マーさん、来て御覽な

さいよ」と言つた。

「マギー」は、一言の挨拶もしないで、猶苦しい顔をして横を向いてしまつた。「トム」が自分よりも「ルーシー」を好くのが怨みの一つなので、先刻までは小さな白鼠に酷い事の出来ぬのと同様に、愛らしい「ルーシー」に腹は立てないと思つて居たが、それは「トム」が「ルーシー」にはあまり構つて遣らず、自分が大騒ぎして可愛がつてやつてゐたからで、今となつては「ルーシー」を打つとか抓るとかして、泣かせてやりたい氣が爲出した。よしや自分が度胸を据えて、大膽に兄さんを打つたつて、兄さんは平氣だから何の役にも立たぬが、「ルーシー」を虐めれば、兄さんを弱らせる事になるう。「ルーシー」さへ此處に居なかつたら兄さんは必然もう疾に自分と仲が直つてゐるに「マギー」は信じ切つてゐた。

家庭教育 玩具の造り方
手工應用

第二十三圖 手拭架たぬき



藤 五 代 策 譯

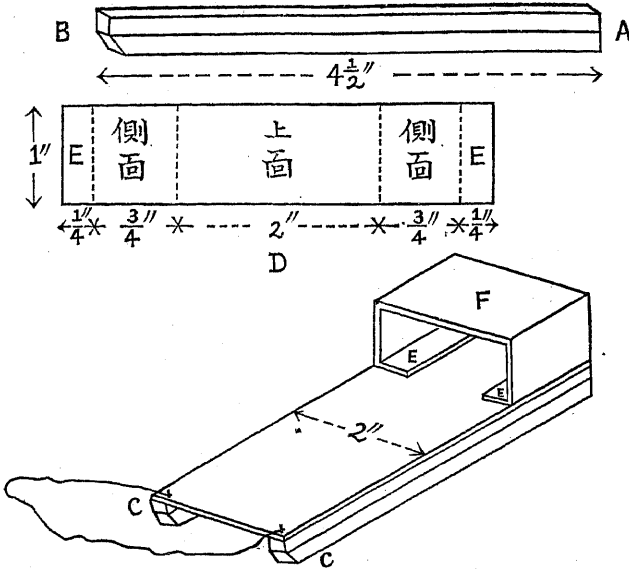
燐寸棒¹/₂のを五本と、²/₂のを二本とを切る。A
に示せる如く兩側なる二本の柱の頂端を削りて、
上端より¹/₂隔りたる所にBなる横木を付け、之よ
り¹/₂を隔て、第二の横木Cを付け、同じく¹/₂
隔て、第三Dを付ける。それが立派に出来たら、
の棒の中心を求めて、之を兩側の柱の下端に付け
るのである。接ぎ目毎に留針を刺せば堅牢になつ
てよろしい。

第二十四圖 櫛

平板を長⁴/₂幅²/₂に裁ち。⁴/₂長の燐寸棒を四
本造りてA圖に示せる如く二本宛膠にて貼り付
け、其の各の一端Bを削り去りて、Cの如く平板
の底の兩側に付ける。

次に平板を長⁴/₂幅²/₂に裁ち、之にD圖の寸法に

よりに鉛筆にて線を引き、其上を小刀にて軽く刻み目を付けて、Fの如く折り、而して兩側のEの



部を前に造つた臺の後端に付けるのである。臺の
前部に細かい留針を二本叩き込み、其頭に糸を結
び付けて曳綱とする。

少し入り組んでは居るが、Fの兩側及後側に平
板を貼り付けて凭掛られる様にすればなかく具
合がよろしい。

第二十五圖 樂譜臺

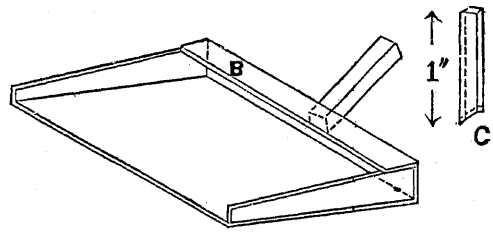
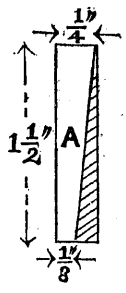
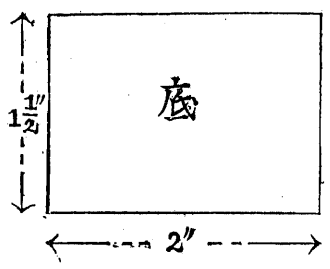
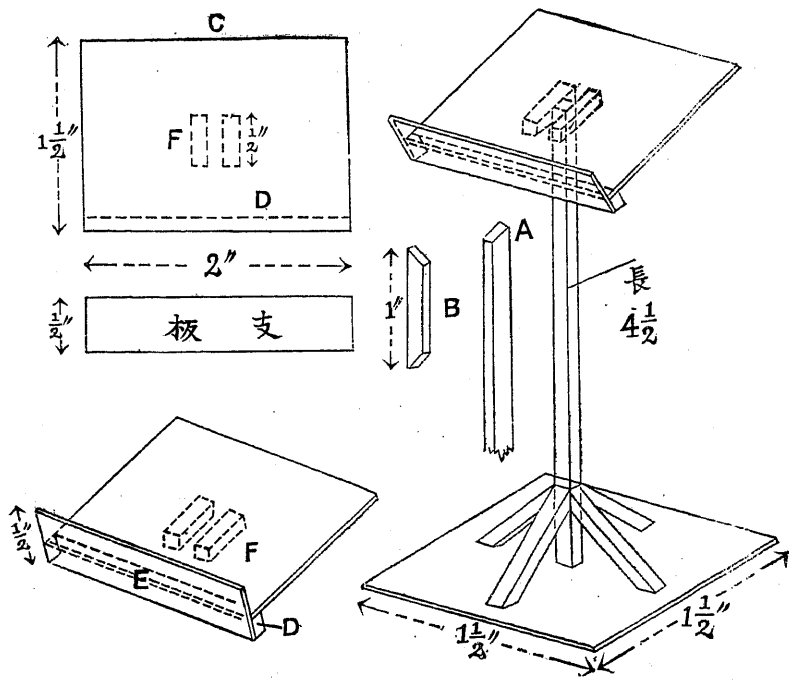
樂譜臺は作り方が餘程面倒であるから注意せね

ばならぬ。先づ臺と柱から初めやう。

燐寸棒の長 $\frac{1}{2}$ の一本と、 $\frac{1}{2}$ のを四本切り、
平方の平板を一枚造りて、柱の頂端をAに示
す如く四十五度の傾斜に削る。今度は平板の中心
を求めて此點に柱を建て、臺の裏から柱に通して
留針を叩き込むのである。それが出來たらBなる
短かい方の四本を取りて各其の兩端を圖に示す如
く四十五度の角度に削りて、膠を以て柱の四面と
臺とに着ける。そこで膠の乾く間に上部の机の部
分を作るのである。

先づ平板を長 $\frac{1}{2}$ 幅 $\frac{1}{2}$ に裁ちて、其の一方の縁
の裏にDなる長 $\frac{1}{2}$ の燐寸棒を貼り付け、今度は今
一つ長 $\frac{1}{2}$ 幅 $\frac{1}{2}$ の平板を造りて支板となし、Eに示

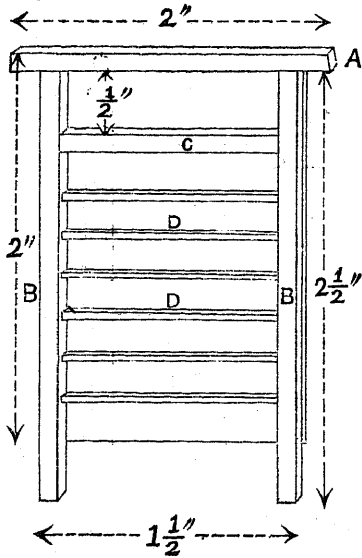
せる位置に着けるのである。次に燐寸棒¹長のも



の二本を作りて、机の裏面にFの如く各竝行に着けるのであるが、此の二本の間隔は恰度前に作つた柱の頂端が其間に嵌まる様にせねばならぬ。それが完成したらば、机の部分と柱の部分とを附着すれば樂譜臺が出来上るのである。

第二十六圖 芥取

平板を長²幅^{1 1/2}に裁ち、之を底となす。次に



平板を長^三幅^一に裁ち、其の短い方の縁の上

第二十七圖 洗濯板

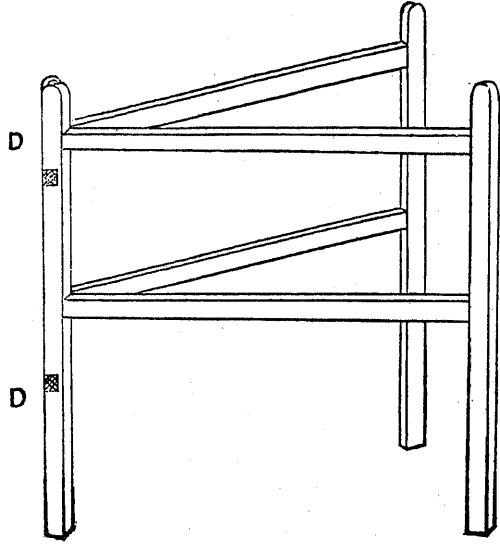
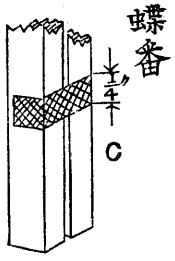
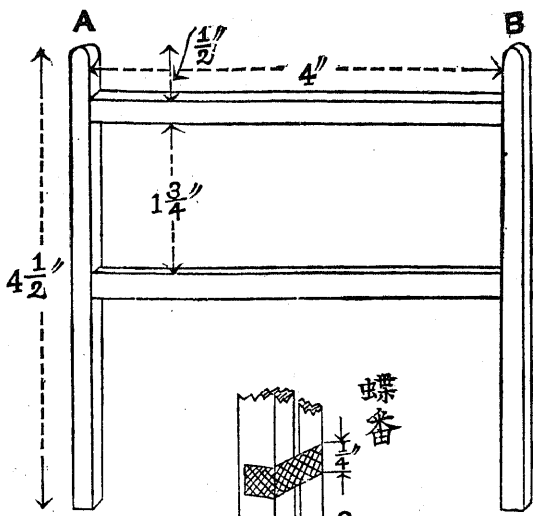
如く斜に削りて取付けるのである。
柄としては燐寸棒を長^三に切りCの一端を圖の
Aに示せる如き兩側の側板を造り、別に長^三幅^一の板を作りて後側の板となす。それが出来たら、此の四枚の板を膠で組立て、今一枚Bなる長^三幅^一の平板を裁ちて兩側及び後側の板の上に都合よく貼り着けるのである。

にAなる長^三の燐寸棒を着け、左右兩側の縁の上になる長^三の棒を附着する。それからAの棒から^三隔りたる所にCなる棒をBとBとの間に嵌める。今度は此のCに並行してBとBとの間に、Dなる平板を幅^三に裁ちたるもの六本を、同じ間隔に着けるのである。

第二十八圖 衣紋掛

此のお玩具を造るには八本の燐寸棒が要る、即ち四本は^三に、四本は^三に切るのである。長い方の四本を取りてA及Bの如く其の上端を丸く削る。そこで與へられたる八本の棒を圖に示せる寸法によりて組立て、上圖の如き框を二個造るのである。それが立派に出来たならばC圖の蝶番の製作に取りかゝる。

幼稚な子供にとりては、衣紋掛が自由に開閉する様に蝶番を着けるのは、なかく困難な事である、それで此困難を除く爲めに、茲には極めて簡便な方法を述べやう。先づC圖の如く幅^三の木綿



布片^フ又は丈夫な紙を取りて、二つの框を合せて其の一方の柱の前面及び側面(C圖參看)に廻して貼

る。斯くの如くして下圖のDの位置に貼り附くれ
ばよろしいのである。

蝶々

ニ調 二拍子

5. 6	5. 6	5	3.	2	3.	3	2	1	2.	0
ア	レ	ア	レ	テ	テ	ガ	ト	デ	タ	—
あれ	あれ	て	て	が	と	—	ま	つ	た	—
1	2	3	4	5	5	5	0	6	6	6
シ	ロ	テ	ガ	ヒ	ト	ツ	—	キ	ロ	テ
すみ	れ	に	—	ふ	た	つ	—	れ	ん	げ
い.	い.	6.	6	5.	5	5.	5	6.	6	6
ミ	ン	ナ	デ	サ	ン	ビ	キ	ト	ン	デ
み	ん	な	で	さ	ん	び	き	と	—	ま
5.	6	5.	6	5	5	3.	3	3.	3	2.
ボ	ク	ラ	モ	イ	シ	ヨ	ニ	ト	ビ	マ
わ	た	し	も	い	し	よ	に	と	ま	り
										1.
										0
										—
										1.
										0
										—

第二十回京阪神聯合保育會提出歌曲

(大阪市保育會)

一、あれ〜蝶々がとんで来た

白蝶が一つ、黄蝶が二つ

みんなで三匹とんで来た

僕等もいつしよにとびませう

二、あれ〜蝶々がとまった

すみれに二つ、れんげに一つ

みんなで三匹とまった

私もいつしよにとまりませう

郵便屋さん

～調 二拍子

2	<u>2</u>	<u>2</u>	2	0	2	<u>2.</u>	<u>2</u>	2	0				
イッ	ピッ	ヤ	サン		イッ	ピッ	ヤ	サン					
い	びん	や	さん		い	びん	や	さん					
3.	<u>3</u>	<u>2.</u>	<u>2</u>	1	1	2	<u>2</u>	3.	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	2	3
イ	ソ	イ	デ	ジャ	ウ	ズ	ニ	ク	バ	リ	ナ	サイ	モウ
い	そ	い	で	じゃ	う	ず	に	あ	つ	め	な	さい	もう
5.	<u>3</u>	5.	<u>3</u>	2	<u>2</u>	2.	<u>1</u>	2	0				
カ	レ	コ	レ	ジュ	ー	ニ	ヂ	ダ					
か	れ	こ	れ	ひ	が	く	れ	る					

一、郵便屋さんく

急いで上手に配りなさい

もうかれこれ十二時だ

二、郵便屋さんく

急いで上手に集めなさい

もうかれこれ日が暮れる

○關西教育博覽會の幼稚園部

七月十五日から大阪市天王寺公園に開かれて居る大阪市主催の關西教育博覽會此の種の博覽會として最も大規模なもので、教育の諸方面に亘つて有益なる出品陳列が盛なるものでありますが、殊にその中に幼稚園部を加へられたことは最も適切といはなげればなりません。本館二階に中等教育部と隣りして四間に十間の面積内が即ち幼稚園部であります。出品の過半は大阪であります。東京、京都、神戸、名古屋、静岡、松本等の他府縣の幼稚園からの出品もあります。一巡見て歩いた處で出品の主なものゝ列擧すれば左の通りであります。

大阪の部

談話用掛圖三、(精華幼稚園)

碁方掛圖五、(靑幼稚園)

室内及庭園に於ける幼兒の遊び方寫眞の類(松島、道仁、愛珠、集英、久實、西六、汎愛、廣教、中大江、船場、北大江、本田、堀江、東江、日吉、浪華、各幼稚園)

幼兒體格統計表(本田幼稚園)

幼兒の好む粘土細工と自由畫とによりて研究したる幼兒の觀念

界の調査表(本田幼稚園)

幼兒身體検査表(船場五園)

幼兒畫帳附觀察簿の様式及調査並に記入の方法(汎愛幼稚園)

訓練の目的、訓練の細目掛圖(汎愛幼稚園)

西區保育會一覽表

組遊より得たる園兒作品の模型(江戸堀幼稚園)

幼兒畫食辨當副食物調査表(御津幼稚園)

運動用具

- 1 紅白大まり直徑三尺
- 2 鈴輪
- 3 長方形積木
- 4 組木壘
- 5 藤まり大小二種
- 6 木馬
- 7 いざり車(大さ砂糖箱)
- 8 はかり
- 9 眞田紐
- 10 郵便屋サンのカバン
- 11 ホートイス
- 12 トロツク
- 13 園藝用道具各種
- 14 回轉運動器

手技品

麥はら細工、ふどう籠、飛行機(紙と箸)、蘭細工、經木細工、畫き方(型紙應用、色は繪具又は自然物と、くさ等)、廢物利用(煙草の紙にて人形とかめ)、自然物利用廢物利用の各種

(感覺練習と記してだるま桃の木にてつくりしものゝたどる後繪にするならん)、綿細工、自然物貼付、粘土細工の燒きたる各種、積木、織紙、畫方、排方、

其の他

保育日誌、幼兒園籍簿、幼兒明細簿、週案録、幼兒名簿様式、觀察簿、外遊日誌、保育案、幼兒個性考査簿、會集案、日々の行、雜感録、幼兒個性觀察案、京阪神三市聯合保育會雜誌綴、幼兒のしらべ、幼兒の菜、幼兒畫帳觀察簿、室外觀察日誌、感覺練習資料魚釣り(普通の魚釣りなり)、自然物貼付、組結び及組置き、糸卷遊、蠟細工、色丸、木形打抜き、

京都部

第二月棚 二人の人物に改良衣服を着せたり

第二月棚 (一)豊園幼稚園五年間幼児出席歩合比較表 (二)輪づ

な (三)射的回轉器 (四)筋覺練習器 (五)たすきひも (六)

積木箱(樹を十斗り入れこしたるもの) (七)入籠式積木(前

同様のもの) (八)圓板積木 (九)風まり(小さき紙製) (十)糕

方掛圖 (十一)嵌木(釜魚や鳥を美麗なる板にはめこむ装置な

り) (十二)大根細工 (十三)木製繪型 (十三)豊園尋常小學校

に於ける保育修了兒と然らざる者との成績比較表(右表兒童の

家庭財產表

神戸部

保育寫真六葉と砂遊箱 (善隣幼稚園)

裝飾の原理、教案、天氣表、寫真五枚(收護の祭の圖。海の話

集會のとき爲すとして魚類の切抜きを遊嬉室床上に散布せる圖)他

三葉は忘却仕候、寫真帖、粘土其他の手工品の二三 (頌榮幼稚園)

海岸に保育する寫真一運動用具「扇返」(東尻池幼稚園)

まゆより糸を取る寫真一(兵庫北郡幼稚園)

保育要便額一面 (平安幼稚園)

ひねり細工花かご (清風幼稚園)

體格検査による組分け法掛圖、食事用楕圓形机一(信成幼稚園)

一覽表類一、運動用具寫真額一、手指練習用糸卷類一、幼兒製作

水族館、机の模型 (兵庫幼稚園)

米つき遊具一 (龍野幼稚園)

感覺練習用具(第一視覺練習用色丸、色長さ、同上の應用額)(第

二視、觸、筋、關節感覺の練習、第三聽覺練習(樂器子供琴)寫真

一(保育の實際)運動用具として舟車、時椅子、まり、こむ製竹製、

自由遊嬉中個人別調査、圖畫教授の實際的研究、視觸筋關節感覺

に於ける成績 (神戸幼稚園)

他府縣の部

南滿洲鐵道株會社附屬地幼兒保育の實況 (寫真)

夏の幼稚園寫真四枚 (東京東洋幼稚園)

自然界に於ける玩具及手工材料 (長野縣松本幼稚園)

國體毯 (名古屋皇風幼稚園)

訓練成績二覽 (同)

皇風幼稚園保育一斑 (同)

幼兒の思想につき研究中の一部 (静岡市立静岡幼稚園)

幼兒身體發育につき調査の一部 (同)

新築の圖 (堺市第一幼稚園)

以上、此の他にもまた見落しが澤山あると思ひますがそれは悪し

からず。たゞ、どういふものが出品せられて居るかといふあま

したげを、順序不同に取りあえず、(觀覽者の一人より)

ゴルドン女史著
菅原教造譯述

美 學 講 話

全十八講

『婦人と子ども』附録

第一講 入門

第二講 心像の話

第三講 感情の話

第四講 藝術の起原と職分

第五講 リズムの話

第六講 舞踊の話

第七講 音楽の話

第八講 色彩の話

第九講 線と形の話

第十講 圖案の話

第十一講 建築の話

第十二講 彫刻の話

第十三講 繪畫の話

第十四講 言語の話

第十五講 詩の話

第十六講 戯曲の話

第十七講 散文の話

第十八講 美と藝術

第八講 色彩の話

目次

色彩の物理的及び生理的基礎 — 補色 — 色の對比 — 色彩の好悪 — 色彩の表現性 — 赤 — 青 — 赤と青 —
 黄 — 赤と黄 — 緑 — 白・鼠・黒 — 色の結合 — 色の混合 — 色の均合ひ — 價値 — 色の性質的均合ひ —
 前進的及び後退的配置 — 圖案及び描寫畫に於ける色彩。

色彩の物理的及生理的基礎 三稜鏡下一筋

の太陽の光を透過させますと、赤・橙(樺)・黄・緑・青・紫の順序で一條の色の帯が現はれます。これをスペクトラム(譯して分光色)と申します。元來色は物理學的に云へばエーテルの振動から生ずるもので、其の一秒時間の振動數と波の長さは、次のやうな關係に成つて居ります。

紫	青	緑	黄	赤		
				C	B	A
H	F	E	D	C	B	A
〇・〇〇〇三九三	〇・〇〇〇四八一	〇・〇〇〇五二七	〇・〇〇〇五八九	〇・〇〇〇六五六	〇・〇〇〇六八七	〇・〇〇〇七六〇
七九〇	六四〇	五八九	五二六	四七二	四五二	四〇七

純粹な色即ち飽和色は單一な振動から成り、白は各種の振動の混合から成つて居ります。牡丹色はスペクトラムには出て居りませんが、其の兩

色の名	黒線
一秒間の振動數	一振動の波長
(單位は百萬回)	(單位はミリメートル)

端の色即ち赤と紫とを交せれば出來ます。赤い光が視覺器官を通じて網膜に當たりますと、神經の末端が刺戟されて、其の印象を腦に運び、ここに赤といふ感覺を生じます。黄色の光線も亦、黄の感覺を起させるものであります。もし赤と黄とが混つて居れば、橙(樺)の感覺が刺戟されます。もし亦混つて居らぬまでも、同時になり直ぐ續いてなり、同一点に當たれば、やはり橙が見えます。是に依て見れば、色の混合は網膜の上で始めて成るもので、光線は其の點に達する迄、別々に行くものだと云ふ事が分かります。

色は時限及空間的延長の外に、色調・飽和・明度の三方面に分ける事が出來ます。

色調と云ふのは、スペクトラムなり虹なりを例にとつて云へば、一々の色の變化で、たとへば赤・橙・黄・緑・青・紫・牡丹色と云ふのは、取りも直さず其色調の變化を云ひ現はして居るのであります。

色の飽和とは色の純粹さの事で、たとへばスペ

クトラムの色は、我々の經驗し得る最も飽和した色であります。斯の如く純粹なる色を飽和色と云ひます。總て飽和色は之を不純粹に即ち不飽和にする事が出來ます。この不飽和化の性や量は、これに混つてゐる光の性質と分量に依て定まるので或飽和色に白を混せれば白を帯びた不飽和色所謂淡い色となり、黒を混せれば黒みを持つた不飽和色所謂濃い色になります。

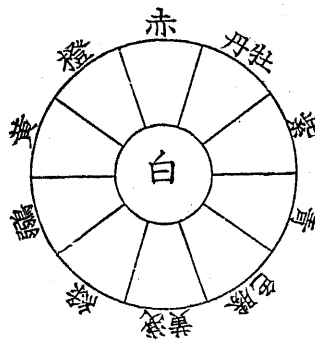
色の明度(又は明暗)とは明るさの事で、白を帯びた色は總て明るく、黒を帯びた色は皆暗い色であります。しかし或色と同じ明るさの灰色を混ぜますと、其の色の明度を變はらせずに、唯飽和の度だけ増減する事が出來ます。次に共に飽和した黄と青とを比べますと、黄は明るく青は暗い色であります。やはり共に飽和した赤と緑とを比べますと、明度はかなり似て居ります。

物理的には、黒は光の無いもの、白と灰色とは無色の光であると云ふのは當つて居りますが、心

理的には黒も白も又其の間際のあらゆる灰色も、皆それ／＼特性を備へて居り、色と呼んで差支のないものであります。

補色 一所に混せると白光となつて了ふ二

つの色は、互に補色又は餘色と申します。凡ての



色は、各々補色を持て居ります。主な補

色の對は、この圖に示してあります。即ち赤と淺黄、橙(樺)

とかつ色・黄と青・鸚と紫・緑と牡丹色と

云ふ様に、差向ひの

二色は互に補色なのであります。表には出て居りませんが、黒と白の如きも一對の補色と看做すべきであります。

色の對比 灰色を背景とした赤い圓板の上

に眼を數秒間とめて居り、それから圓板を取り除

けますと、其處に赤の補色即ち淺黄が見えます。

これは殘像(又は繼續對比)の現象であります。次にやはり眼を數秒間灰色を背景にした赤い圓板に

注いで、いつまでも圓板を其儘にしておきますと、丁度瀉れ出す様に、圓板の周圍に淺黄即ち赤の餘

色が表はれて參ります。是は同時に起る對比であります。斯う云ふ事實に依て、一定の時間中網膜

を刺戟すれば、補充的又は填補的な仕掛けが眼其物の中に起るといふ事が分かります。灰色の場合

にも此の通りで、暗灰色は明るい心像を誘致し、淡灰色は暗い心像を誘致いたします。かういふ過

程は、實驗的條件のもとでは、無論明白にあらはれるにきまつて居りますが、條件の爲めに多少不

明瞭にされて居る場合ですら、猶絶えず働いては居るのであります。故に青と緑とを竝べておけば、

青は黄色を誘致しやうとしますけれども、人の眼に映る色は黄色でなくて、黄色がかつた緑であります。同時に緑の方は牡丹色を誘致しやうとしま

ます。

すが、牡丹色は現はれずに、隣の青が牡丹色が、つて來る許りであります。又補色を一緒に見ると、共に飽和が増して見えます。故に畫家が或色を特に際立たせやうと思へば、其の色の附近に補色を點する注意がいろいろあります。佛國の畫家ドラクロアの繪には、殊更に多くの補色の對を用ゐて均合を保つてあります。

もう一ツ對比の効果を申し添へておかなければなりません。或色と白色、又は其色より明度のまさる灰色とを一所において見ますと、實際より色が暗く見える事は上にも述べましたが、其色より明度の劣る灰色と一所に見ると實際より明るく見えます。かういふ色の明度の變化は、色調の上にも同様の影響を與へます。混色の場合には（繪畫に有效な色は、皆幾分か他の色調と混つて居ります）明色の成分は暗い四圍に依て引立ち、暗い成分は明るい周圍に依て引立ちます、橙色を例にして見ますと、四邊を黒くすれば黃の勝つた橙色と

なり、白で圍めば赤味の勝つた橙色となるのであります。

色彩の好惡

一々の色の美しさ、即ち各單

色の相對的快適の度を知るために、いろいろの研究が行はれました。英國の美學者で色彩論を以て有名なグラント・アレンは、劣等民族に派出された多勢の傳導師の報告を集めて、其れに依て赤（黃をも包含す）青・綠の順で、好きから嫌の色を列べました。米國の心理學者のポールドウインは、自分の小供が見せられた色に手を出した順序から判斷して、青・赤・白・綠・茶（此場合は黃を入れない）の順序に其撰擇を配列致しました。獨逸の美學者コーンハ、自分の試験した時には被験者達は黃を好まなかつたと云つて居りますが、米國の心理學研究者たるメージョア・ベーカー・バップラー諸氏は、此の結果はあてにならぬと申して居ります。同一の色調で飽和のみ異なる色を與へられた時、コーンの被験者達は飽和した方を選びました。飽和が殆ど同等

な色の場合は、上に述べました黄の様な時の外、人毎に全く選擇を異に致しました。著書の實驗では、暗い背景の場合は赤・黄・緑・青の順で選ばれ、明るい背景の時には、青・赤・緑・黄といふ順でありました。紫は小供の好く色だと云ふ人もありますが、以上の試験の時には數に入れられませんでした。しかしいくら實驗を重ねた所が、確かな結論を得る事は出来ません。たゞ青と赤とは可なり好かれる色であり、又飽和した色も好かれると云ふ事實だけが分かつたに過ぎません。併し光其物が極度と迄では無くとも、兎に角非常に快いものであると云ふ事は確で、一般に閃光・光輝・光澤等が愛される事は、これを證明して居ります。如何なる色調も明度と飽和と面の廣さと色の結合さへ適當ならば、大抵快感を誘ふものであります。

色彩の表現性 凡ての色は、敏感の人には特種の情調を起させるもので、これは聯想的要素

及び色の感覺其物が直接によびおこす生理的反應の兩方に基いて居ります。佛國の心理學者フレン其他二三の學者は、種々の色を見た時起る筋肉の力を測定して、色の刺戟力を決めやうと致しました、その結果十分信頼するに足る程のものは得られませんでした。併しその方法をなほ精密にさへすれば、筋肉狀態の相異點は分かる見込があります。英國女流の美學者リーとタムプソンとは、色の經驗に附隨する生理的變化の内省的證據を擧げて居ります。——「華美なる色は呼吸を速め、暗靜なる色はこれを遅くす。呼吸の遲速に伴ひて前者は華美輕快なる情緒を、後者は嚴肅の感を生ぜしむ」云々。猶色の相異は、心臟の鼓動にも影響を及ぼすのは事實であります。

赤 赤は高々と鳴り渡たる喇叭の響きに比較した人があります。これは温色の一ツであります。色の情緒的特性を知るには、其色を本にして成つた象徴とそれに関する聯想とを見るのが早道であ

ります。血の色である赤は熱情と死の象徴であり、支那人の中には徳と眞理を代表するものと見て居るものもあります。古代ローマに在ては、赤旗は戦闘の信號とされて居りました。歐洲では、中世紀に騎士候補者は血を流すのを何とも思はぬしに赤衣を貰ひました。基督教の宗教畫では、キリストと聖母とは大抵青いチュニックの下に赤い下着を着て居る様に描いてあります。近代藝術に於ける赤の象徴的な使ひ方は、ロセッチの繪によく出て居ります。其の「ダンテの夢」といふ繪の中の愛の天使は紅衣をまとひ、床には眞紅の罌子が撒き散らしてあります。亦其「ベアタ、ベアトリス」の繪には、眞紅の鳩が居ります。宗教畫では同じ色でも質の異なるものを使ひわけてあります。一例を云へば鮮紅は純潔な感情を現はし、暗紅は罪を現はして居ります。アッペイの「聖杯」の繪には、騎士ガラハッドの外衣は、鮮紅に限つて居ります。

青 青は通常冷かな穩かな色で、静けさと深

さを現はすと看做されて居ります。ラスキンの「近代畫家」中にターナーが青を點する所必ずや空氣あり。そは空氣なり、物にあらず。彼は海を描くに青を以てしたり、自然も亦然かす。遙かなる眼路の極みの地點をあらはすに、彼は青——青玉色に深き——を以てせり、自然も亦然り。霞める影、岡の巖穴を現はすにも、彼は青を以てしたり。されど光あざやかにして巨細にわたり辨別し得らるゝ所をあらはすに、彼は青を用ゐたることなし」と説いて居ります。ラフカゾオ・ハーン（小泉八雲）氏も同じ様な事を云つて居ります。即ち「青は高遠・宏大・深奥等に訴ふる所多く、こは遠隔と渺茫との色なり」。また「冴えたる青は他の明色と異なり吾人の自然經驗中決して大にして不透明なる固體と伴ふことなし」と同氏は云つて居ります。

以上の如く青の調子は包含的雰圍氣的であり、且濶大の感じを與へるので、背景・天井・壁などの裝飾には無上のものがあります。佛國の畫家シャ

グワンヌの描いた壁畫のしつくりと美しく壁に適應して居るのは、全體にゆきわたつた柔らかな青にも負ふ所があるのであります。基督教藝術間及通俗の象徴としての青は、貞操を現はすものになつて居ります。

赤と青

近頃の「英國心理學雜誌」に掲げられたバルーの論文「單色の美的鑑賞上の知覺問題」の一節によつて、次に赤と青とを比べて見ましよう。一般の色の表現性又は氣質に就ては、赤と青若くは赤を含む色と青を含む色との間には、氣質的對比があると大ざつぱに云つても差支なからうと思ひます。赤又は赤味を帯びた色の氣質は、通常同情に富んだ、なつかしいたちのもので、淡白に打つけて近づいて來る様な氣がします。然るに青の方は、澄まして、懸け離れて居て、近づかない氣質を持つて居り、「分かりにくい」と云はれる様な人に多少似た所がありますが。此の特質は決して冷酷で人を寄せつけない譯ではない。それ所

か、却て赤よりも落付きがあり、深さがある様に思はれるので、獨得の引力を以て居るのであります。かういふ對向は、外の方面にも表はれて居るので、赤は飛びぬけて活動的な色であり、青は沈思冥想に耽らうとする傾があります。赤は時には壓迫を感じさせる程の精力を表はします。これを「迸出する」と形容した人のあるのも恠しむに足りません。然るに青の方は常に冷かで、懸け離れた態度を失はずにあるので、人によつては思ひ上がつた様子とさへ見るものがあります。また赤は双向ひの出來ぬ強さと力とを印象しますけれども、青は其の威嚴のある安靜と特異な宏さの感じとの印象を留めるものであります。

黃

スペクトラムの黃は七色中最も明度の強い色で、其の効果は白と似た所があります。これも溫色の一ツで陽氣な浮き／＼した色であり、東洋諸國では信仰と太陽との象徴たる神聖な色としてあります。然し基督教寺院では、これを破廉耻の

色とし、俗には嫉妬と凋落の象徴に使はれて居ります。淡黄色と金色とは、如何なる色ともよく映るので、最も使い易い色の中にはいつて居りません。

赤と黄

赤と黄とは刺戟の仕方はちがひますが、通例共に強烈な刺戟的な色となつて居ります。色彩に依て刺戟される動的聯想に關する美學研究生の答へを次に掲げませう。

甲「私の心に極めて明白に強く發動的性質を示したものは赤と黄とである。赤は一直線に猛進して、更に紛亂を生ずることなく、敏活を極めた運動をし屢々音響に伴はれる。黄は旋回的の性質を持つてゐる様な氣がする。かの黄色い物の全面には瞬時も回轉を已めぬ億兆の微細な黄の渦が満ち満ちて居る様に思ふ。故にほんの一寸でも黄を眺めて居ると、眼が眩む様である」

乙「赤は前方へ猛進する運動を想はせる。其の運動は速くて目まぐるしいが、而も整然として強固

である。黄は亦赤とは全然異なる發動的聯想を興へる。其の運動は一層迅速で活潑ではあるが、前方へ進むのではなくて上方へ昇る様であり輕快にして波紋の如く浮び且捲き燃るゝ感じがする」

緑

緑はスペクトラムの冷半部の端にあつて、赤や黄ほど刺戟的ではありません。グラントアレンは、緑は未開人にはそれ程悦ばれてない色であるが、文明人に愛されるのは、文明の結果自然に遠ざかつて原野や森林の緑と接する機會を失つた物足らなさかもとであると申して居ります。

基督教の方ではこれを希望及靈感の象徴としてあります。我々は之を春及び繁茂するものと聯想致します。

白・鼠・黒

白は歡ばしい然し靜かな氣分を起させる色で歡喜と純潔との象徴となつて居ります。

鼠又は灰色は、あらゆる色の内最も嚴肅な、もの靜かな微妙なものであります。或實驗室で一枚の

大きな灰色の紙を眺めて、後其の色彩經驗の印象をかう書いた人があります。——純灰色は溫和と深さとの印象を與へ、其の静けさが耳にありくときこえて來る様な氣までした。其の濃淡陰影のおだやかさは、優美・輕快・靈妙といふ様な感じをさそふ。私はその移り工合(暗きより明るき方へ)を見ながら、我知らず微笑んだ。全體からいふと、清楚・纖巧・精妙の印象を與へられたが、かういふ觀念は敬虔又は恭謙の身體的感情を誘致するものである。詩では灰色は「貞潔なる色」、又は「灰白の嚴やかなる色」となつて居ります。

黒は憂鬱な沈靜な色で、西洋では悲哀と死の象徴に用ゐられ、又罪惡をも現はします。外の色と一緒にある時、殊にまほりを限られて居れば、非常な力と集中力とを印象致します。黒程特質的な色は外にはありません。

色の結合　餘色を一所に使ふと快感を與へるには相異ありませんが、尙ほ試験の結果、餘色に

近い乍ら純然たる餘色とも云へぬ位の色同士の方が、一層快い事が分かりました。ベーカー女史は「自分の調べた處では、温半部の色の方が僅か乍ら確に愛せられて居ると云ふ事が出来る。又結合の重心は、いつも色輪の中央にある譯ではなく、幾分紫・赤・橙・黄の方に寄つて居ると云つて居ります。此のベーカーの得た結果は、飽和色にも其儘あてはまりません。同女史の説に依りますと、黄は配合の好い色で、よく外の色と一緒に使はれます。金色の調和的な性質は、實際上既に古くから認められて居りました。裝飾圖案では、よく不調和な色同士を金色の縁へりでつないで調和をとる事があります。ピザンティンの繪(即ち文藝復興期以前の繪)の金色の背景、西班牙のムリロの畫いた黄褐色の背景などは、黄色が他の色とよく合ふ事を表はして居ります。白・鼠・黒等の外の色との配合は、大抵快感を誘ひますが、外の色と非常によく合ふ色は、灰色とはそれ程合ひません。チョーンは「或色を外

の色との映りがよければ好い程、その色と灰色との映りが悪いのは動かす可からざる事實である」と云つて居ります。パーバーは色と濃淡との結合を試験した結果、冷半部の色は各自の濃淡とよく調和しますが、黄以外の濃色の濃淡は、外の色の方がよく調和します。それ自身の濃淡と一等よく合ふのは、橙色と黄色とであります。獨逸人で英領カナダのトロントー大學の心理學の教授たるキルシユマンの法則に依りますと、最も快い配合は三種の對比の効果、即ち色調、明度、及飽和の對比を表はして居るものであります。

畫家の實地にやる所を見ますと、色の配合には普通二つの方法があります。其の一によれば、全體を通じた色が一つあり、飽度明度及色調を或程度迄變化させて差異を作ります。青の勝つた繪では明るい青・暗い青・濃い青・薄い青・緑青・紅青等を用ゐます。對比色も少々ははいりますが、全體を總べてゐる或一ツの色の印象を妨げぬ程度に過ぎ

ませぬ。これを主調法又は統一法と申します。對比法と云ふ今一つの方法では、二つの主要な色があり、其の二つの濃淡が互に織り合ふ様になるか、又或説によれば、對比色は赤・青・黄の三色を表はさなければならぬとも云ひます。此の二つの方法は是非を定めるはむづかしいと云ふのは、其の用途はちがふものゝ、共に美しい事は同一だからであります。主調法は調子が一層揃つて居り轉移が餘り急激ではありません。従つて對比法の方は、燦然として活氣に富んで居りますが、主調法の方が寧ろ沈靜で有ります。

色の混合

中間の色を得るために二つの色を混せる方法の中、一つは畫布カシマをぬらぬ前に混ぜておくので、今一つの方法は始め一つの色を塗り其上へ直ぐ今一つの色を塗るのであります。亦もう一つの方法は、二つの色を別々にならべて塗るので、さうすれば一方の色の小さな點が、今一方の小さな點と眼の網膜の上で交り合ふ様になるので

あります。白と黒とをさういふ風にしますと、近く寄つてみれば、まるで白と黒との小さな斑點に見えますが、ずつと離れて見ますと、純粹な平らな灰色に見えます。然し相當な距離をおいて、即ち遠過ぎも近過ぎもせぬ所から見ますと、黒と白とは非常に明快な透明なびか／＼する様な灰色を呈します。もし赤と青との點を斯う云ふ風にすれば、其の結果は非常に艶の好い紫となります。此の印象的な混色法により、通常のバレットの上でいきなり繪の具を混ぜるより、遙かに輝やかな透明な色の効果を収めることが出来ます。この混色法は今述べた様に網膜の上で行はれます。眼を一所にちつと留めておく事の不可能であるとは、誰しも知つて居ります。密に細まかに入り交つてゐる色の面を見て居乍ら、一寸でも眼が動きますと、一つの色に刺戟された網膜の一點は、今一つの色に刺戟される様になります。網膜上の混合は、眼が少し著色面の焦點を外れて居る時が一等容易であります。こ

れは此場合には誰れ／＼の斑點の像が、網膜の上で重り合ふのであります。ステインド・グラスの場合には、此の網膜混合が特に美しい効果を與へます、即ち赤と黄との點には、眩い様な橙色を生じ、赤と青との點は、紫の閃光を生じて、近寄れば消えて亡くなる捕へ難い自在な美を描き出します。

色の均り合

色調・明度・飽和・大きさ・形

等、總ての點が全く同じな二つの色の面が、或繪なり圖案なりの兩側に等勢的位置を占める時に、此二つの色は平均して居る即ち釣合を保つと申します。此の均合の場合には、繪の中心を支柱と認め中心から兩端への距離を槓杆の兩端と認めます。物理學上の均合の場合には、もし槓杆の一端を短かくすれば、其の方の重量を増さなければならず、又其の一端を長くすれば、重量を減らさなければなりません。これと同じで、中心を遙か離れた端にある小さな色の面は中心に近い大きな面と均合がとれま

す。兩端の色の質が異なる時、例へば青と橙、黄と緑と均合をとる場合の如きは、問題が一層こみいつて參ります。實驗上（暗い背景を用ゐて）少量の明色は多量の暗色と匹敵する事が分りました。故にもし同じ大きさの明色と暗色とでしたら、明るい方は槓杆の作用に依て重量を差引かれますから、槓の短かい方の棒切繪の中心に近い方にきおかねばなりません。明色の重量の多いことは、明るい赤や黄で塗つた面の大きさは、實際より大きく見積もられ、青や緑は其反對に小さく見られるといふ傾向に依て、幾分説明が出来ますが、併しこれでは明るい背景上の暗い色の重さを説明する事が出来ません。兎に角明色は重く見過ぎられると云ふだけでは、其の重さを説明するに足りません。只今申しました通り、明るい背景では色が黒ずめば黒ずむ程、其の重味又は價值は増して參ります。尤も著者の知つて居る限りでは、明るい背景での確な實驗は未だされて居りません。

價值

これは明度（明暗）の關係に對する畫家の用語であります。黒と白との繪即ちペンやインクや木炭等で描く白の地へ黒の畫を出す時には、最も強い黒が最高の價值を有つと云ひます。繪の具の場合には其の反對で、最も多く白を含む色又は最も明るい色が、最高の價值を持つて居るのでこゝでは價值は明度と同じであります。これは米國のヴン・ダイク教授の「價值」なる言葉の使ひ方でありませんが、これに依ると、最高價值を持つ色は、必ずしも最強の對照を爲す色と同一の色ではないと云ふ事になります。如何となれば、もし或繪が全體に淡青を主とした色彩ならば、いくら強い光を用ゐたにせよ、濃い強い黒の筆觸程な利き目はないからであります。

科學では形と大きさ以外、色調・明度・飽和の三種の區別を認めて居りますが、畫家は色調も明度もくるめて單に「調子」と云つて居ります。「圖案の原理」と云ふ本を書いたパチェルダーは、これに定

義して「調子とは價值(明暗の如き)又は色(赤・綠・青の如き)を云ふ」と云つて居ります。藝術家又は批評家は「飽和」と云ふ言葉あまり使ひませんし、又明度や價值との間に區別を認めても居りません。

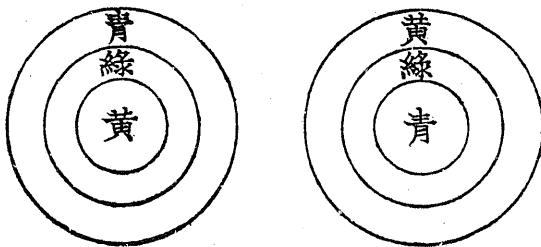
色の性質的均合ひ

上に色の均合を述べる

に當つて、物理的均合ひの概念を借り、或量と他の量とを量る事にして見ました。色の質をも商量するにはしましたが、其の効果を重さの量的方面に移して考へました。が「均合」なる言葉は、もつと嚴密に質的な意味にも使はれるので、「純正圖案原理」を書いたロスは、「調子は其位置・準度・形等に頓着せず、又、地の色調との對比が同等である時には、單に調子許りで均合するものである」と云つて居ります、或繪が三種もしくは其れ以上の色調(又は明るさ、濃さを)持つて居る時には均合を保つことが出來ます。白・灰色・黒の圖案の場合なら、灰色と黒との相異の度と、白と灰

色との相異の度とが、同じであれば、明度の均合ひが出來、亦黄色・鶩色及橙を帯びた黄色等の色調ですと鶩色と澄を帯びた黄色の二色が同じ度

合で、純黄色とへだたつて居れば、均合が保てます。亦二つの色調が同じ飽和の度合で地色とちがつて居れば、飽和の均合がとれます。



前進的及後退的配置
 色は配置の方法に依ては、空間の第三(ダイナミク)元をあらはす事が出來ます。此處に示した圖の左の方

のは色の前進的配置、右の方のは後退的配置を現はして居ります。中央に最も明るい色をおけば、

圓錐形の頂點が見る人の方に突き出てゐる様な氣がしますし、一等暗い色を中央におけば、圓錐形の頂點が後方へ引込んで行く様に思はれます。アシユレーは之に關する實驗を試みました。其時先づ試験者達に、對象を近寄せたり遠ざげたりするから、其時々距離を判せよと云つておき、又其の對象を照らす光の量は、實驗者が自由に増減する事の出来る様にしておきました。すると、光を増した時は被験者達は對象が近づいたと云ひ、光を薄くした時は遠ざかつたと申しました。が事實其物はちつとも動かされはしなかつたのであります。是に依つて明るさと近さとは、一つ物の様に思はれて居る、即ち明るいと云ふ事は近いと云ふ事を保證して居る觀のある事が分りました。畫家は前進的方法をとる事もあれば、後退的の方をとる事もありますが、全體としては繪の或點に光の中心をおいて、そこから外の部分に明りが射して遠ざかる程段々暗くなる様にするのが通常であ

ります。アシユレーのまだ發表せぬ實驗の中には、次の様なものもあります。四原色、赤・緑・青・黄を配合して、明色の模様を中央に、暗色を其の周圍にあしらつた圖案と、其の反對に色を配置した圖案と比べる様な仕掛けをして見た所が、全體として明るい色を中央にした方がよろこばれました。又赤と緑とでは、此の場合は緑より赤の方がくらい色であつたにかゝはらず、赤を中にした方が快とされた様でありました。

圖案及描寫的に於ける色彩

人物なり、靜

物なり、風景なりを畫く畫家は、色の使ひ様を形に依り、殊に對象の配景に依つて餘程制限されるものであります。肉の色許りで塗つた顔や、綠許りで塗つた樹は、見られたものではありません。普通肉の色と呼び、草の色と呼び、空の色と呼ぶものは、實は顔や草や空の色々の有様から抽出した模型的の色であります。初めて斯う云ふものを描く人は、斯様な一般的な色を使ひます。つまり蓄積

した概念を通して見て居るので、現在自分自身の眼に直接に映る色を、却つて閑却してゐるのであります。普通の人には全く見えない外の色を使つて「眞實」の色を暗示するのが、藝術家の仕事なので、一例を云へば畫家は肉色を出す爲めに、種々の赤・緑・青・黄・紫・灰色等のバレットを混ぜます。故に描寫に於ては、畫布に塗られた色と、觀者の眼にうつる色とに、非常な齟齬があるのは明白であります。畫面の色に漸増的又は漸減的の等級を付けると云ふ必要は、畫家に色の飽和を多少變へさせる事があります。ラスキンは「一點の色はどんなに小さくとも差支ない、たとへ極めて微少な針の頭位でも關ふ事は無いが、其の一點が外の部分より暗らくなければそれは良い筆能とは云へぬ」と云つて居ります。

裝飾圖案の場合は、是と全く違つて居ります。

圖案家は色を代表的に使ふ即ち描寫するのでは無く、之を表出するものであります。色彩論の大家

ルードは「裝飾圖面は、本來美しき抽象物の代表に非ず、美しきものそれ自身なり」と申して居ります。裝飾家は自分の好き勝手な飽和色を自由に使つて差支なければ、扁平な濃淡の無い色で塗つても關ひません。配景に筆を取るにも及ばず、たゞ眞に美しき色の配置均合と云ふ究極の目的さへ達せられれば、形は殆ど無い制限の取捨折衷を許されて居ります。勿忘草を赤く出して薔薇を青く塗つても、其の圖案に必要とあれば一向差支はありません。故に圖案は色其物の爲めの色を最も自由に發揮し得る舞臺であります。然るに代表的繪畫即ち描寫畫に於ては、それに使はれた色は、其の意味して居る色の象徴より以上の用をして居る事が有ります。

兒 童 研 究

社會の改善も、人類の向上も、文明の進歩も、國家の發展も、詮じつむれば、ただ善良の兒童を得るにありと言ふことにならる。兒童を愛する國は興り、兒童を顧みざる國は亡ぶ、これは千古萬古變ることなき箴言である。兒童の研究は、ひとり教育家や、醫家に一任して置くべきものではない。世の父兄自ら研究すべき筈のものである。兒童の研究は即ち我を愛し、家を愛し、國を愛し、人類を愛することになる。兒童のために最善を謀らざる家庭は、決して幸福を望むことは出來ぬ。我儕は何人も兒童の研究に興味を持たれんことを切に希望してやまないのである。

○會費半箇年分金九十錢 同一箇年分一圓八十錢○兒童研究は毎月一回二十
五日發行○會員には無代頒布○見本金十五錢

東京市本郷區千駄木町五十番地

日 本 兒 童 學 會

◎先生随分おもちやが來ましたね◎どこ

から◎これはね東京のフレールベル館から

園長さんが買つて下さつたの◎フレール

ル館のおもちやはいいのね◎先

生々々僕シーソーにのせて

頂戴◎先生私に此のマ

、ゴト貸して頂戴

◎先生之は何

です

之はね積木で

もつて電車で

も汽車でも出

來て車がある

からほらころ

がりませう◎面白いな

僕に貸して◎あたいにも

ね先生先生くくくく

◎僕にシングルベルス◎あたいに球投

◎先生此の馬は

之は手綱を引くと前に進みますよ*

*君二人で競馬やらうおいこりや面白いな

◎さあ皆さん少し静になさい今先生が皆に

貸してあげま

すから

◎子供は可愛い

ものね

幼稚園恩物類

東京 九段 フレールベル館

製造販賣 振替東京一九六四〇
電話番町二九〇九

